20　次の文章は、日本の平安時代から鎌倉時代への移行期に題材を取った歴史評論である。この文章を読んで、後の設問に答えよ。出題の都合上、本文を省略・改変したところや、返り点と送り仮名を省略したところがある。　　　　　　〈徳島大〉二〇二二年度出題

二 天　　大　一 者、　二 　一 而　レ 、 天　　大　勢、①豈　易　知　哉。昔　朝　廷　二 藤　原　一、　藤　原　氏　、　 二 平　一、　平　氏〔注１〕。〔注２〕権　臣　之〔注３〕患 ②如　此、而   
（Ａ）雖　子、無　如　之　何。三 源　頼　朝　二 平　一、 ③破　之　於　士　河、〔注６〕声　威　二 天　一。二〔注７〕常　情一 レ 、  
（Ｂ）宜　長　駆　而　進、滅　平　氏、直　拠　師　以　号　令　天　下。 頼　　　レ〔注10〕　二 鎌　一、　二 東　一、　哉。　権　臣　之　二 天　一、 〔注11〕二 天　一 　レ 　耳。　天　下　 一 而　 三 天　　二 一、而　雖レ レ 二 天　下　之　一、（Ｃ）〔注12〕英 雄　之　所レ レ 　也。　頼　　　不レ 二 天　一、　天　子　不下 二 権　一〔注13〕上レ 。雖レ レ 二 京　一 而　天　下　二 〔注14〕一 、レ 二〔注15〕天　下　　　之　一 也。レ〔注16〕二 権　臣　之　一、而（Ｄ）天　下　之　権　  
レ 。嗚　呼、頼　朝 ④可　謂　知　天　下　大　勢　矣。

（青山延光「源頼朝論」による）

〔注〕　１　横―好き勝手にする、横暴である。

２　権臣―権力を持った臣下。

３　患―弊害。

４　天子―天皇。

５　富士河―駿河国（現静岡県）を流れる河川。治承四（一一八〇）年十月、源頼朝は、鎌倉を拠点に定めると西に向かって軍を進め、富士河において平氏軍と戦った。

６　声威―名声と権威。

７　常情―常識的な感覚。

８　攘滅―追い払い滅ぼす。

９　京師―京都。

10　師―軍隊。

11　挟―たてにとる、威光を借りる。

12　英雄―能力のある野心家。

13　待―見なす、あつかう。

14　当―対抗する、匹敵する。

15　天下勁兵之地―「勁」は、「つよい」の意。「天下勁兵之地」は、「全国のうちで強兵が集う地」の意。ここでは鎌倉を中心に関東地方を指す。

16　襲―倣う、踏襲する。

問１　傍線部①～④をすべて書き下せ。

問２　波線部（Ａ）「雖天子、無如之何」を書き下し、現代語訳せよ。

問３　次の書き下し文を参考にして、波線部（Ｂ）に返り点を加え（振り仮名や送り仮名はつけなくてよい）、かつ現代語訳せよ。

宜しく長駆して進み、平氏をし、ちに京師に拠りて以て天下に号令すべし。

問４　波線部（Ｃ）「英雄の願はざる所なり」とあるが、「英雄の願はざる所」とは、どのようなことか説明せよ。

◎問５　波線部（Ｄ）「天下の権、に帰す」とあるのは、「天下が源頼朝の手に入った」ことを言っているが、源頼朝が天下を手に入れることができた原因を、筆者はどのように考えているか、具体的に説明せよ。

【解答と採点基準】

問１　①＝豈に知り易からんや

②＝此くのごとく（して）

③＝之を富士河に破り

④＝天下の大勢を知ると謂ふべし（謂ふべきか）

問２　書き下し文＝天子と雖も、之を如何する（こと）無し。

現代語訳＝Ａ天皇とはいっても、Ｂ権力を持った臣下の弊害をどうすることもできない。

それぞれ同内容可。

Ａ＝４／Ｂ＝６

問３　返り点＝宜下長 駆 而 進、攘二―滅 平 氏一、直 拠二京 師一以 号中―令 天 下上。

現代語訳＝Ａ源頼朝は、東国から京都まではるばると遠征して進軍し、Ｂ平氏を追い払い滅ぼして、Ｃ直接京都に本拠地を定めＤ京都から天下に号令をかけるのがよい。

再読文字「宜シク～べシ（＝～するのがよい）」の訳ができていないものは全体０。以下それぞれ同内容可。

Ａ＝３〔主語「源頼朝」を示す語がないものは減点２。〕

Ｂ＝２／Ｃ＝２／Ｄ＝３

問４　Ａ藤原氏や平氏といった権力を持った臣下がＢ天皇の威光を借りて天下を治めようとして、Ｃまだ天下を従わせていないうちに天皇の怒りを買って憎まれたこと。

文末が「～こと」になっていないものは減点２。以下それぞれ同内容可。

Ａ＝２〔「藤原氏や平氏」（４行目末の「彼ノ」の指示内容）がないものは減点１。〕

Ｂ＝４／Ｃ＝４

問５　Ａ源頼朝は富士河の戦いで平氏に勝利して以降、その名声と権威は世間に響き渡っていたにもかかわらず、軍勢を引き連れて鎌倉を本拠地とした。Ｂ天皇の在所である京都ではなく鎌倉を本拠地とすることで、源頼朝はＣ天皇の威光を借りての政治に陥ったり、天皇の権力を侵したとして憎まれたりすることがなかったから。

「Ｂすることで、Ｃとなった」という関係性が明示できていないものは全体０。文末が「～から（ため）。」になっていないものは減点２。以下それぞれ同内容可。

Ａ＝３〔「源頼朝の名声、権威が世間に響き渡っていた」という意が示せていればよい。〕

Ｂ＝４〔「天皇の在所である京都」に相当する語のないものは減点２。〕

Ｃ＝３〔「天皇の威光を借りる」「天皇の権力を侵し憎まれる」いずれかを欠くものは減点１。〕

【書き下し文】

　のをる、くのにじてをす、るに天下の大勢、問１①に知りからんや。にずれば、ち藤原氏にし、氏に任ずれば、則ち平氏たり。の問１②くのごとく、問２天とも、之をすることし。平氏をつにびて、に問１③之をにり、天下をはす。より之をれば、しくしてみ、平氏をし、ちににりてて天下にすべし。而るに頼朝はち師をらしに拠りて、以てをむ、ぞや。の権臣の天下にけるや、らに天子をみて以て之にむのみ。れ天下だずしもせずして徒らに天子のりむと為る、天下の権を専らにするをると雖も、のはざる所なり。だ頼朝は則ち天子を挟まず、に天子権臣を以て之をたず。京師に拠らずと雖も天下くたるきは、天下のに拠るを以てなり。権臣のをはずして、天下の権にす。、頼朝問１④天下の大勢を知るとふべし。

【現代語訳】

　天下の（動きの）大局を知る者は、その傾向を利用して天下を取ることができるが、天下の（動きの）大局は、どうしてわかりやすいだろうか、いやわかりやすいはずがない。昔、朝廷が藤原氏に（重職を）任せると、藤原氏が権力をほしいままにし、平氏に（重職を）任せると、平氏が好き勝手に（権力を行使）した。権力を持った臣下の弊害はこの（＝藤原氏・平氏の）ようであり、問２天皇とはいっても、権力を持った臣下の弊害をどうすることもできない。源頼朝が平氏を討伐することになって、（頼朝が）平氏を富士河（の戦い）で破った後、（頼朝の）名声と権威は天下を震わせた。常識的な感覚でこれ（＝頼朝の名声と権威が世間に響き渡っていたこと）を考察すると、問３（頼朝は、東国から京都まではるばると）遠征して進軍し、平氏を（京都から）追い払い滅ぼして、直接京都に本拠地を定め（京都から）天下に号令をかけるのがよい。しかし頼朝はそこで軍隊を戻し鎌倉に本拠地を置いて、（まずは）東国を平定した、（これは）なぜか。（藤原氏・平氏といった）権力を持った臣下の天下で（の行い）は、無駄に天皇の威光を借りて天下を従わせようとしただけである。これでは天下がまだ必ずしも従うとは限らず無駄に天皇の怒りを買って憎まれ、天下を従わせる権力を好き勝手に行使できるとはいっても、野心家（である頼朝）が宿願とはしないものである。ただ頼朝は天皇の威光を借りず、だから天皇も権力を持った臣下として頼朝を扱わなかった。京都に本拠地を置かなくとも天下に（頼朝に）対抗するものがいないのは、全国のうちで強兵が集う地である関東の一角（、鎌倉）に（頼朝が）本拠地を置いたことによるのである。権力を持った臣下の事例を踏襲せずに、天下（を治めるため）の権力はここ（＝鎌倉）に集まった。ああ、頼朝は天下の（動きの）大局を知っていたといえるに違いない。